さらさらと

おすわりなさい
指の間から砂はこぼれおちてゆく
さらさらと
泣いているのかと思いましたよ

おすわりなさいな
あなた

夢で会った見知らぬ人への違和を夕方まで抱えている

眦が裂けた
ざらり
二、三歩よろよろと歩いて立ち止まる
歩けない
人を探している
名を言うとそんな人は知らないと言う
眉がぴんと跳ねた
彼は知っている
歩けない

歩くな

と・お・い・キミ

ひよっと足指を絡げて
天井に吊るしてみる
ぷっくりお月さん
天井越しに麦酒で乾杯
生ハムみたいな風がぼぼやーん
よい嘘をついたと
ぼくは
とおいキミを励ますのさ

露古
詩3ッ